

2026 年度前期における「学生による授業評価アンケート」結果に対するコメント

2026 年度前期における「学生による授業評価アンケート」の実施に際しましては、ご協力いただきました学生の皆様並びに非常勤講師の皆様、専任教員の皆様に感謝申し上げます。

以下に、2026 年度前期「学生による授業評価アンケート」の全体の結果を概観してまいります。まず回答者数と回答率ですが、全科目における延べ受講者数 10560 人に対しまして総回答者数は 7139 人となりましたので、回答率は約 67.6%となりました。直近の 2025 年度後期の回答率が約 57%でしたので、約 10%のアップとなりました。また、前年度前期における回答率は約 60%でしたので、この 1 年間で回答率は確実に向上いたしました。いわゆるコロナ禍を機にして、この「学生による授業評価アンケート」は紙媒体での記入方式から、現行のユニバーサルパスポートを用いての記入方式へと記入方法を変更したのですが、以来、回答率は低下してしまい、なかなか向上していきませんでした。こうした状況を踏まえて、FD・SD 委員会におきましては回答率 80%を目標として、回答者である学生さんの立場に立ち、より回答しやすい方法で、学修上有益なフィードバックが得られる授業評価アンケートの開発に取り組んでいるところです。改善はまだ道半ばではありますが、少しずつ成果が表れはじめているものと思います。これもひとえに、学生さんをはじめ皆様のご協力の賜物であり、心より感謝申し上げます。しかし、まだ当面の目標値である 80%には到達しておりませんので、どうか引き続きご協力いただけますようお願い申し上げます。

さて、回答率は向上したもののまだ十分なものとは言えないことから、結果の解釈には慎重であるべきことを踏まえまして、以下に 2026 年度前期における「学生による授業評価アンケート」結果の特徴を概観してまいります。まず A 領域の「あなた自身について」ですが、「①この授業への出席割合」(4.38)、「②授業に積極的に参加した」(4.35)、「④授業を受けて関連領域をさらに深く勉強したくなった」(4.10)、「⑤シラバスに掲げられている到達目標を達成できそう」(4.09)、「⑦この授業全般において満足である」(4.24) の 5 項目におきましては、平均値が 4 を越えていました（5 段階評価なので最高点は 5 点）。また、「⑥シラバスに掲げられているコミュニケーション能力が身についた」(3.95)に関しましても、平均値は 4 に近い値となりました。こうした結果に基づきますと、受講生は「授業の出席率は非常に高く、尚且つ、授業には積極的に参加し、そして、授業で学修した領域をさらに深く学びたいと思うようになり、シラバスに掲げられている到達目標、及び、コミュニケーション能力を達成できそうだと感じている」、このように自身の学修状況を認識していることがうかがえます。そして、学修状況をこのように認識しているため、授業全般に対する満足度も高くなっているのだと思われます。本アンケート結果からは、このように推測することが可能かと思われます。

次に、B 領域の「授業や教員の教え方について」ですが、「⑧学生が集中しやすい授業だった」(4.28)、「⑨授業は質問や意見などを発言しやすい様子であった」(4.03)、「⑩学生の理解度を確認しながら授業が行われていた」(4.13)、「⑪授業の学習目標を学生に伝えていた」(4.29)、というように全 4 項目において平均値が 4 を越えておりました（5 段階評価なので最高点は 5 点）。こうした結果から考えますと、受講生は、教員の授業運営に対して、「教員は授業時に学習目標を伝え、個々の受講生の理解度に気を配りながら、授業に集中できるように教室をコントロールし、質問や意見を発言しやすい環境にも一定程度配慮していた。」というように認識していることが推測されます。

以上の A 領域、B 領域の結果をまとめてみますと、下記のような授業の様子が浮かび上がると思われます。受講生は、授業に積極的に集中して取り組み、コミュニケーション能力を含めた到達目標を達成できそうな程度に学修できており、さらに学んでいきたいと思っている。これに対して、教員は受講生が学習しやすい環境を整えている。本アンケート結果からは、学生さんが本学の授業における学修状態に対して、このような認識を持っていることが示唆されます。

学生による授業評価アンケートに対するこうした認識の傾向は、ここ数年間ほとんど変化していない状態にあります。このことから考えますと、学年や年度にかかわらず、授業に対するポジティブな認識が本学における教育活動の大きな特徴の 1 つといえるでしょう。また、各資格における国家試験の合格率はさらに向上しています。また、就職に関しては、開学以来高い就職率を維持し続けています。こうした本学の学修活動の総合的な結果を示す学修成果は、授業を中心とした学修活動の充実が大きな要因になっているものと思われます。

最後に、さらに成長度を高めていくための課題は何かとえば、受講生の予習や復習といった授業外学習時間を増やしていくことです。このことに関しては、今期の学生による授業評価アンケート結果からも十分とはいえない状態であることが示唆されました。したがって、2026 年度におきましても、学修者本位の教育の実現をめざし、授業時以外でも主体的に学習していくことができる授業へと改善を進め、個別最適な学習環境をつくりあげていくことを本学の最重要課題と位置づけ、この課題解決に向けて尽力してまいります。ご理解とご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和8年度前期

授業評価アンケート

授業コード：

授業科目名：全体

担当教員名：

受講者数：10560名

回答者数：7139名

学科	人間科学部 社会福祉学科	人間科学部 医療福祉学科 視能訓練専攻	人間科学部 子ども教育学科	人間科学部 社会創造学科	心理学部 心理学科	保健医療学部 理学療法学科	保健医療学部 作業療法学科	保健医療学部 言語聴覚学科
	993	275	656	905	2191	1124	438	557

学年	1年次	2年次	3年次	4年次
	3472	1897	1524	246

設問No	設問文	1	2	3	4	5	*全平均
		そう思う	やや そう思う	どちらでも ない	あまりそう 思わない	そう 思わない	

A.あなた自身について

①	この授業への出席割合は 1.毎回 2.ほとんど 3.3分の2ぐらい 4.半分ぐらい 5.半分未満	3713	2538	734	80	48	4.38
②	授業に積極的に参加した	3725	2446	681	187	60	4.35
③	この授業1回あたりで予習や復習に費やした時間は 1.2時間以上 2.1時間以上~2時間未満 3.30分以上~1時間未満 4.30分未満 5.全くしていない	533	854	1716	2064	1942	2.43
④	授業を受けて、関連領域をさらに深く勉強したくなった	2890	2682	1090	266	179	4.10
⑤	シラバスで掲げられている到達目標を達成できそうだ	2662	2836	1288	210	111	4.09
⑥	シラバスで掲げられているコミュニケーション能力が身に付いた。	2555	2429	1555	363	206	3.95
⑦	この授業全般についてあなたは 1.満足である 2.やや満足である 3.どちらでもない 4.やや不満である 5.不満である	3462	2319	1028	191	106	4.24

B.授業や教員の教え方について

⑧	学生が集中しやすい授業だった	3692	2195	875	221	123	4.28
⑨	授業は質問や意見などを発言しやすい様子であった	3070	2058	1334	403	242	4.03
⑩	学生の理解度を確認しながら授業が行われていた	3246	2240	1142	301	184	4.13
⑪	授業の学習目標を学生に伝えていた	3631	2256	958	147	114	4.29

